令和８年度　市長をかこむ会　川之石地区　R8.9.10　19：00～20：18　場所：川之石地区公民館

出席者	住民	31人	市　大城市長・清水保内庁舎管理課長 政策推進課　長川補佐・菊池係長

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
政策推進課	※事前質疑 八幡浜市 おでかけアドバイザー養成講座のその後	2024年（R6）に実施された、地域公共交通の利用促進や外出支援を目的とする「おでかけアドバイザー」の講座に参加した。その後、実質的に改善された箇所が複数あり、非常に実りの多いセミナーであった。具体的には以下の通りである。 ①八幡浜駅内に「ようこそ八幡浜」のパネルが設置された。 ②「はまポン」のパネルに6か国語で歓迎の言葉（ようこそ Welcome）が表示され、外国人観光客に好印象を与えている。 また、JR八幡浜駅からバスでスムーズに移動できるよう、当時の担当者が中心となって、改札正面に掲示するための大型の交通網パネルを準備していたはずである。 現在、このパネルは未完成のまま八幡浜市役所入口左手のエレベーター前に残されている。当時の作業を完了させ、JR八幡浜駅前に設置してほしい。 このパネルは、「JR YAWATAHAMA → みなっと → YAWATAHAMA PORT → 九州（Kyushu）」といった表記があり、市民や外国人観光客の双方にとって分かりやすく、移動しやすい内容となっている。	八幡浜市では、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づいて、生活や街づくりに必要不可欠な移動手段である地域公共交通を、持続可能なサービスとして維持・確保するため、地域公共交通計画を策定している。おでかけアドバイザー養成講座も、この地域公共交通計画の一環として実施している。本講座は、令和6年度に続き令和7年度も開催し、合計で19名を「おでかけアドバイザー」に認定した。アドバイザー認定後は、職場での勉強会開催をはじめ、小学生と公共交通を利用してお出かけする企画の立案・実行、第二層協議体における外出企画のサポート、JRの乗り方を分かりやすくまとめた資料の商工会議所だよりへの掲載など、多岐にわたる活動を行ってもらっている。さらに、アドバイザーの企画に参加した方が、地元の地域サロンで公共交通を利用したお出かけ企画を立案・実施するなど、活動が着実に地域へと広がっていることを実感している。市としても、市民に公共交通をより身近に感じてもらい、利用方法を理解してもらうきっかけとなるよう、引き続き本講座を継続していきたいと考えている。続いて、質問のあったJR八幡浜駅前及び市庁舎の看板については、本年10月に実施する地域公共交通計画（「わかりやすく、使いやすい公共交通」等の基本方針に基づく「バス路線の再編およびバス停名称の統一」「案内看板の整備」）の一環として整備する。英語表記を入れるとともに、路線を色分けするなど、市民や観光客にとってより分かりやすい看板となるよう整備を進めていくため、完成まで今しばらく待ってほしい。引き続き、本市の公共交通行政への理解と協力をお願いする。
保健センター	※事前質疑 高齢者外出支援事業について	八幡浜市では、75歳以上の高齢者のみの世帯（条件付き）を対象に、年間1万円強の共通チケットを支給していると認識している。定年（60～65歳）を過ぎると車から公共交通機関への移動が徐々に増えるが、定年後の収入に対して交通費の負担が大きい。例えば、八幡浜から松山までのJR運賃は往復で普通列車2,860円、特急5,260円となり、気軽に出かけにくい現状がある。 私の長年の生活拠点であるフランス・パリでは、65歳以上の世帯（条件付き）に対し、市内から郊外50km範囲まで無料で移動できるパスが支給される。都市の規模は違うが、このような取り組みを参考に格差を縮めることはできるのではないか。 具体的には、市の予算を活用し、年齢に応じて交通費を一部負担（例：60歳～50%、65歳～60%、70歳～70%、75歳以上～80%）する制度を提案したい。これが直接的な「高齢者外出支援」につながると確信している。	指摘のとおり、定年退職後における日々の移動手段の確保や、年金生活における交通費の負担感は、多くの高齢者やその家族が直面している切実な課題であると認識している。本市においては、高齢者の社会参加や移動支援を目的として、これまでも75歳以上の高齢者のみで構成される世帯を対象に、バス・タクシー等で利用できる共通チケットの支給を実施してきた。さらに、支援を必要とする高齢者の実態や近年の物価高騰などの状況を勘案し、令和8年度からは、より多くの方が活用できるよう支給要件の緩和と助成額の拡充を行ったところである。要望の「65歳以上への対象拡大」や「鉄道・バス等の交通費の直接的な一部負担（大規模な運賃助成）」については、現時点では市の財政状況や持続可能な制度設計の観点から、すぐに同等の仕組みを導入することは大変難しい状況である。 しかしながら、今後さらに高齢化が進展していく中において、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に活動し、医療や買い物、社会参加のための移動手段を確保することは、行政にとって極めて重要な課題であると捉えている。今後は、75歳以上の外出支援の実施状況や効果を見極めるとともに、単なる福祉施策としての外出支援にとどまらず、「地域公共交通の維持・利用促進」や「高齢者の生きがいづくり」といった多角的な視点とも結びつけながら、持続可能な総合的交通・福祉政策について中長期的に検討していく。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
政策推進課	※事前質疑 移住体験用お試し住宅について	昨年の「市長をかこむ会」（川之石地区みなせ）で提案した件についてである。2025年（R7）9月時点で、八幡浜市には移住体験用の「お試し住宅」が存在していなかった。その後、すぐに整備に向けて準備を進めるとのことだったが、1年が経過した2026年（R8）9月時点での進捗状況を知りたい。 現在、「お試し移住体験」の補助金制度はあるものの、市内のホテル住まいでは地域に根付いた生活体験がしにくく、観光の延長のようになってしまい、Uターンや Iターンを促す要素に欠けている。 「お試し住宅」を設置した上で、移住体験補助金を利用してもらえば定住率は高まるはずである。本市の人口確保は必須である。	昨年の「市長をかこむ会」終了後に補足で回答した内容ではあるが、八幡浜市では既に移住体験住宅を設置している。 この移住体験住宅は、市営木多町住宅の一室を活用して設置しており、移住を検討している方が一定期間滞在し、地域での生活のイメージを具体的に描いてもらうことを目的としている。また、単なる観光や宿泊目的での利用を防ぐため、7日以上30日以内の利用期間を設けており、本市への本格的な移住を真剣に検討している方を対象としているところである。一方で、「やわたはま移住体験補助金」は、移住検討者が市内のホテル等に宿泊し滞在する際の費用を補助する制度であり、7日以上の滞在が必要な移住体験住宅の利用が難しい場合や、短期間の訪問を希望する方、まずは地域の雰囲気を感じてみたいという方にとって非常に有効な制度となっている。なお、「移住体験住宅」と「やわたはま移住体験補助金」は併用することができないため、利用を検討する場合には自身の目的や滞在日数に応じて、どちらか一方を選択する必要がある。このように、「移住体験住宅」は移住をより具体的かつ真剣に検討している方に向けて提供しており、一方で「移住体験補助金」は、八幡浜市を移住先候補として気軽に訪れたいライト層の方を支援する仕組みとなっている。それぞれ異なるニーズに応じた支援を通じて、移住検討者に寄り添った環境を整えているところである。
文化振興課	保内町の歴史資料の活用と展示について	宇都宮壮十郎邸やそこにある資料が全く利用されず、押し込められている状態である。街の見学の際、資料や建物、風景が揃っていれば時代の歴史が一目でわかり、人々の記憶にも残ると思う。保内町（紡績、鉱山の歴史など）の歴史を綴った資料を作成し、また、資料館として整備し、地域の発展や人のつながりに活かしてほしい。	資料館を作りたいという思いはある。いただいた意見を持ち帰り、管理の方法や実現可能性を含めて整理・検討する。 また、目的を持って街を歩けるような良い周遊コースの構築につながるよう、資料の作成についても、前向きに進めていきたい。 【補足】 旧宇都宮壮十郎邸は、通常は外観の見学が多いが、事前連絡により内部見学も可能。ただし、明治期の建物であり、広く公開・活用していくためには、活用目的に応じた整備を検討する必要がある。 町の歴史に関しては、保内ボランティアガイドの会が作成した冊子や解説パネルなどもあり、地元団体の協力を仰ぎながら管理・活用方法を検討したい。
文化振興課	保内町の歴史資料の活用と展示について	ゆめみかんや中央公民館保内別館に眠っている多様な資料も、目につくようにしてほしい。	中央公民館保内別館については、2階の耐震化や強度についても十分検討する。 【補足】 中央公民館保内別館は、耐震性は確保されているものの、老朽化による不具合が生じている。現在、展示室内は収集資料で満杯となり、市内各所に分散保管している状況である。そのため、市全体で、長期的な保存公開を見据えた整理・集約・施設整備が必要である。
生涯学習課	市民スポーツセンターの地下駐車場の精算機とプール改修について	地下駐車場の事前精算機を今後導入する予定はあるか。	駐車場の事前精算機については、これまで議題に上がったことがなかったが、大改修の際に今後どうするか皆で協議する。
		来年4月から1年半かけてプールが改修される際、スイミングスクールは休止になるのか、他所を借りて継続するのか、その決定時期はいつか。	市内に他のプールがないため、一番近い伊方町の町民プールの一部のコースを借りてスクールを開催する方向で現在伊方町と交渉中であり、決まり次第市民に報告する。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
学校教育課	小学校の水泳記録会の開催場所について	小学校の水泳記録会が今年度スポーツセンターで行われたが、今後も場所が変更になるのか。	小学校の水泳記録会の場所変更については、持ち帰って教育委員会に確認する。 【補足】 令和9年度については、本年度同様に市民スポーツセンターを会場に開催する。令和10年度については、市民スポーツセンターが改修となるため、小学校体育連盟と教育委員会で会場を検討する予定である。
水産港湾課	川之石（旧桟橋付近）の満潮時の浸水対策について	川之石の旧桟橋周辺で、釣り人などがいる場所が満潮時に常に浸水している状況があり、高さ約3メートルの塀があるが、満潮時に潮が上がってくると不安がある。県と相談するなどして、解決に向けた検討をしてほしい。	ご指摘の場所は、再々、改良工事が行われているが、満潮時にはどうしても越水する形になるため、県と相談しながらどのような対策ができるか検討していきたい。 【補足】 愛媛県より（ ※川之石港が県管理港湾のため）桟橋付近の野積場については、港湾管理者である県が浸水対策のための嵩上げ工事の設計を令和8年度実施し、令和9年度から工事着手する予定である。また、野積場に隣接する道路側溝の排水先が海であり潮位が上がった時に逆流するため、それも合わせ、逆流防止のフラップゲートも設置する予定である。
防災危機管理課 文化振興課	雨井地区の歴史（大峯銅山など）の活用と避難場所・道路について	小学校の時に習った雨井の歴史（かつて新居浜の別子銅山よりも銅が多く採れたという大峯銅山など）の記憶がある。銅山周辺や雨井地区を盛り上げるため、行きやすい道路（地震の際にも通りやすい道）の整備や、活用方法を考えてほしい。	大峯銅山の場所は富士シリシア化学（株）さんの所有地にあり、現在は、危険なため封鎖されているため、市が地域活性化や避難道整備を目的に整備することは難しいと思う。
防災危機管理課		高くて分かりやすい場所に避難場所があったらいい。	現地の場所がはっきり分からないため、正式な場所を教えてもらった上で、活用できるかどうかを改めて考えたい。 【補足】 雨井地区の津波一時避難場所は、雨井神社と雨井お庵である。この津波一時避難場所は、地区自主防災会が決定したものである。雨井を含む川之石地区で他の場所も津波一時避難場所とするなら、防災危機管理課まで連絡いただきたい。
生活環境課	環境保全（プラスチック削減等）について	スーパーでの買い物で多くの人がエコバッグを持たずプラスチック袋をもらっている現状を踏まえ、プラスチック袋を「買わない、もらわない」意識を徹底する必要がある。 マイボトルを推奨し、ペットボトルの削減を図ることも必要である。	行政が上から強制するのではなく、市内の店等からエコバッグ持参やプラスチック削減が自然に広がっていくことが重要であるため、川之石の皆さんから少しずつ始めてほしい。 【補足】 マイボトルの推奨については、児童センターなど市内7施設にウォータースタンド（マイボトル用給水機）を設置し、ペットボトルの削減に取り組んでいる。ご協力をお願いしたい。
政策推進課	環境保全（公共交通利用等）について	マイカー利用から自転車・徒歩への早期転換、カーシェアやウーバータクシー（松山で2025年6月から開始）を導入してほしい。	JRやバス等の公共交通の利用促進は公共交通期間の存続や安定運営につながるため、しっかり使ってほしい。ウーバータクシーについては、松山市での先行事例を参考に、まずは職員で検証・検討を行いたいと考えている。ただし、八幡浜市への導入については、まだ少し早いのではないかという点も踏まえ、慎重に見極めていく。

担当課	事項	要望内容等	かこむ会での回答
生活環境課	環境保全（ペットボトル削減等）について	ペットボトルの削減策として、日本の高品質な水道水を活かした「浄水器の常備」を提案する（防災用の水備蓄としての活用も含む）。	ペットボトルの備蓄（2リットルを10本程度など）は災害時の備えとして重要であり、使いながら補給する形での常備活用を推奨する。素晴らしいアイデアだと思う。
商工観光課	回転寿司の出店場所について	ドーミーイン・EXPRESS（ホテル）、回転寿司の正確な設置場所を教えてほしい。	ホテルは八幡浜米穀の倉庫があった場所（マクドナルドの昭和通りを挟んだ反対側の土地）、回転ずし（みなっと第2駐車場）はスケートパークや水上交番の前にできる旨を地図・周辺施設を交えて説明した。
建設課	高規格道路整備の完成時期について	現在整備中の夜昼道路に建設される「夜昼トンネル」の長さと、大体の完成期間を教えてほしい。	夜昼トンネルの長さは約2700メートル（2.7km）。工事に約6年かかり、令和8年度の橋梁完成後、令和9年1月頃からトンネルを掘り始め、令和15年頃の道路完成を目指している。
商工観光課	保内中学校横の事業所について	保内中学校横（八幡浜紙業の後ろ）に大きな看板が建っている「ニコニコフーズ」が何をする事業所なのかを教えてほしい。	ニコニコフーズについては、民間事業者の方がみかんの保管倉庫や選果場として使用していると思われる。
政策推進課	市長をかこむ会の市政報告資料について	市政報告資料のページ数を大きい数字で打ってほしい。	資料のページ数表示の要望については、資料作成担当者に申し伝える。 【補足】 説明箇所を分かりやすくするための貴重なご意見として受け止める。 ご要望を踏まえ、次年度の資料からページ番号を記載することとしたい。